

ここが問題！リニア新幹線

第87号 2021年7月1日 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

「調布陥没は特殊地盤の施工管理に問題、リニア工事は安全に施工するので安心を」 「40メートル以内の家屋調査は実施」、「ボーリングによる追加調査はしない」 ～工事推進に前のめり～6月8日東京でリニア大深度工事説明会～

JR東海は、6月8日午後2時から東京・品川区大井町で、「中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区 9.2 km）シールドトンネルにおける安全・安心等の取り組みに関する説明会」を開きました。対象は品川区、大田区、品川区の住民でおよそ3百人が参加しました。

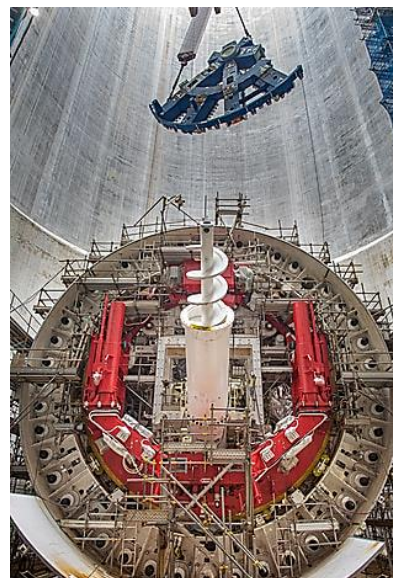
最初にJR東海建設推進本部からリニア新幹線の意義などの説明の後、説明担当者が東京外環道の陥没事故の調査結果を検討した結果、特殊地盤を掘削するにあたって施工・管理に誤りがあったことが原因であると結論し、リニアの場合東京北工区（9.2 km）には特殊地盤が存在せず、施工にあたっては掘削土の固まり具合などを丹念にチェックするなど安全な管理に努めるので地表に影響を与えることはないと言明しました。しかし、大深度工事が地表に影響しないとは言い切れないとして、リニア工事では、ルートの一から両側40メートル以内の家屋調査を行うことを明らかにしました。また情報公開に消極的だと批判されていることをかわすため、オープンハウスを展開し地元での理解を深めると説明しました。

この日の説明でJR東海は、特殊な地盤における工事ミスが外環道事故の原因であると断定し、リニア工事では施工管理をしっかりとやるので、外環のようなミスはしないから安心をと言っているだけであり、JR東海のこの日の説明の内容や姿勢からは、勝手に40戸の住宅を取り壊され、長期間移転させられるという東京外環道住民の言われなき甚大な被害と精神的苦痛を真剣にそして誠実に受け止めてはいないことをわかりました。

JR東海は、工事の施工・管理には安全を強化するとして上で、大深度であっても地表に工事の影響が出ることが外環道事故で明らかになったために、全く影響はないとしてきたこれまでの見解を、「まったく影響がないことでもない」とやや修正し、初めてルート上の家屋調査を事前に行うことを明らかにしました。

私たちが求めてきた家屋調査の実施は受け入れましたが、40メートルよりずっと深い大深度工事であるために家屋調査の範囲をもっと広げる必要があるという住民の声もありました。もう一つのボーリング調査の追加についてJR東海は、「大深度も浅深度も十分に調査を行っている。北工区（品川区～大田区～世田谷区）に特殊地盤がないことも分かっている」として、事前のボーリングの追加はしないという方針を明らかにしました。また「夜間工事はやめてほしい」という要望に対しては「安全に実施するので夜間工事を行う」と答えました。

川崎説明会では問題点を整理して、JR東海の痛いところを突く体制を作ることが必要です。



昨年7月のシールドマシン組立工事（北品川）

東京説明会に参加した住民は JR 東海の説明に納得せず、工事は中止の声が相次ぐ

説明会の質疑・回答概要は以下の通りです。

冒頭の JR 東海中央新幹線建設本部吉岡建設部長の発言趣旨～

「東京外環道地盤崩落事故は、特殊地盤における工事の施工に問題があった。私どもは、中央新幹線の大深度工事では安心・安全を強化して工事を行う。トンネル工事について検討委員会トンネル部会で専門家による安全な施工を検討している。シールド工事前に別途新しい内容について説明する」。

質問：外環道の被害の知見をどう受け止めているのか。

回答：外環道の調査結果と情報を集めて検討し、工事の安全と施工管理にしっかりとつなげていく。

質問：シールドマシンが通る際の振動や低周波をどう抑えるのか。

回答：外環道事故を踏まえどう工事につなげるのかが今日の説明会。発生土の状態を安定的に保つかを考えている。

質問：外環道施工者との協議は行ったのか。

回答：外環道事故は地盤に影響することを考えないで工事をするやり方に間違いがあった。大深度地下と浅深度地下の関係性をしっかりと把握して工事を進める。

質問：自宅近くに洗足池があり、リニア工事で池の水が抜けるとの不安ある。大深度工事による地下水への影響はないのか。

回答：地質調査では北工区では大深度に地下水はない。地下水がなくなる心配はない。

質問：家屋調査を対象者にどう伝えるのか。

回答：チラシにて個別に案内をする。調査への協力をお願いしたい。

質問：リニアの地質調査で北工区に特殊地盤がないことがわかるのか。

回答：むかし海底だったところであり、岩のようになった固結シルトがほとんどで地盤は固い。浅深度の地質も把握している。東京の地層については調査知見がたくさんある。だからボーリング調査の追加はしない。

質問：事前の家屋調査は具体的にどうやるのか。

回答：ボーリング調査で地盤のゆるみ等は調べている。注意して工事を進めたい。

質問：超電導による高速走行で、家電機器に影響はないのか。

回答：電磁波ではなく磁界と言うが、国際基準の ICNIRP のガイドラインに比べれば 1.3% 程度の数値であり全く問題はない。

質問：説明会の事前広報体制は不十分だ。告知や説明も住民に丁寧なすべきだ。

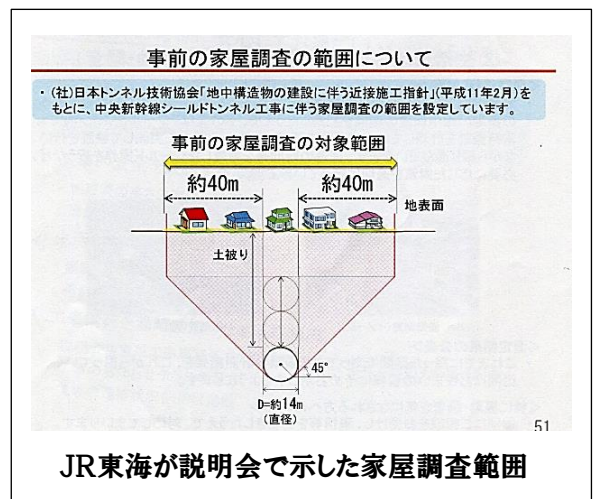
回答：説明会のアナウンスだが、今回からオープンハウスによる説明機会を設ける。工事状況などをその機会に説明していく。

質問：オープンハウスは双方向ではない。丁寧な説明の機会が必要だ。

回答：東京工事事務所まで問い合わせいただきたい。（「そういう問題ではない」の声）

質問：シールドマシン工事では、トンネルの外部の地盤にギザギザができる。空気が押されて上へ上がっていく。リングができ、安定した段階で家屋調査をやるのか。

回答：工事ではトンネル内の土もトンネル周りも固めていく。裏込め剤も注入し固めていくので空



気が上に上がることはない。事前調査をし、工事が済んだ後で家屋の被害状況を調査する。

質問：外環道では一か月後に地盤崩落が起きた。

回答：工事中も地盤への影響について調べる。東京外環道では工事の施工管理に誤りがあった。施工のやり方を間違えると事故が起きる。工事中も地盤の変位について調べていく。

質問：ルート of 両側 40m 以内の家屋を事前に調査すると説明しているが、90m のところで掘れば影響の範囲はもっと広がるではないか。

回答：専門家の説ではあのような家屋調査の範囲になる。

質問：外環でも低周波音が発生して夜眠れないなどの住民の声があった。夜間の工事は中止すべきではないのか。

回答：大深度からの低周波音は出ない。工事で振動が地表に伝わることはないとは言えない。被害があれば私どもの責任で個別に対応し補償をする。

質問：今日の説明会について私のところに告知がなかった。どのように広報したのか。

回答：ポスティングでお知らせした。

質問：東京工事事務所に電話したが、「答えない」という回答で、住所と名前を教えてと言われ、確認してから返答するということがあった。家屋調査の通知は封書で送るよう求める。

回答：おっしゃることを確認してから回答します。「おかしいじゃないか」との声上がる

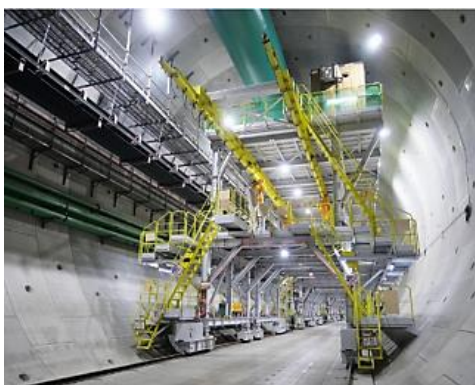
質問：東京外環では地下の下水道管などインフラ施設にも被害があった。

回答：繰り返しになるが、私どもは影響があれば工事はしない。北工区の場合、東京都の下水道管との関係だが、リニアのトンネルは下水管よりもずっと深いところで掘るので影響はない。しっかりと事業間の事前調整をしており、お互いに影響がないよう確認している。

以上

.....

6月26日、新百合ヶ丘駅で、リニア大深度工事反対の宣伝行動



東京外環道大深度トンネル工事

川崎市内のリニア大深度工事の開始をJR東海が急いでいるため、東京・神奈川連絡会は6月26日午前11時から1時間にわたって、リニア工事反対のチラシ配布と市民に対する「アピールを行いました。

当日は7人のメンバーが参加し、東京説明会でのリニア大深度工事に関するJR東海の前めりの姿勢や、シールドマシン組立工事を急ぐ姿勢に強く反対を主張しました。東京外環道の住民被害の実態も報道されてきたことから市民の関心は高く、チラシを受け取る市民も増えています。

東京外環道の道路陥没、空洞発生事故により、事業主体のNE×CO東日本は工事を中止しており、ルート上の40戸の住宅を解体し住民を転居させ、およそ2年間にわたって地盤改良工事を行う方針を発表し、勝手に掘って勝手に家を壊すことは許されないという声が上がっています。

リニア工事開始はできない・・・ 静岡県知事選挙、川勝平太氏が4選



6月20日静岡県知事選挙の投開票が行われ、現職の川勝平太氏（72）が、前自民党参議院議員の岩井茂樹氏（53）を破り4回目の当選を果たしました。投票率は前回は6.5%上回る52.93%でした。得票数は次の通り。

川勝平太 957, 239

岩井茂樹 624, 967

今回の選挙で川勝氏は「リニアのトンネル工事により県民の生活を支える大井川の水量が減少する。一度立ち止まって事業を見直すべきだ」と訴えました。大井川の水を利用する市町のうち、吉田町（川勝氏得票率70.9%）から、島田市、菊川市、牧之原市、川根本町、掛川市、藤枝市、焼津市、袋井市（同66.6%）までの8市2町では川勝氏の得票率が60%以上を記録しました。

大鹿村のブナ古木伐採は中止に決まる

大鹿村の村民がリニアの送電鉄塔建設のため伐採を計画していた樹齢3百年のブナの巨木について、中止を呼びかけ署名を集めていましたが、6月24日開かれた大鹿村リニア連絡協議会でJR東海や中部電力パワーグリッドが「測量の結果切らなくてもいいことになった」と説明しました。住民は「署名などで反対の声が通った。しかし、リニア工事の中止が本来の要求だ」として、伐採不要だけでなく工事中止を求めることにしています。住民は土曜日の残土運搬をやめるよう求めています。JR東海は三連休やイベント時には調整すると回答しました。

相模原では旧相原高校のクスノキの 伐採差し止めで横浜地裁に提訴



相模原市の相原高校のクスノキは樹齢百年を超える巨木で、橋本駅前にあることから市民の憩いの場のシンボルとして親しまれていました。ところが、JR東海はリニア神奈川県駅建設工事のため巨木の伐採を計画し、市も老木で転載は無理として伐採に同意をしています。

橋本の緑と安全を守る会は4月15日に横浜地裁に「クスノキ伐採差し止め訴訟」と、これまで起こしていた住民監査請求を引き継ぐ「国家賠償請求訴訟」を同時に提訴しました。この国家賠償訴訟は84人が原告となって神奈川県と相模原市を相手取って訴えたものであり、原告一人当たり5万5千円の賠償を求めています。このほかに「クスノキ保全管理費返還訴訟」も起こしており、6月28日に横浜地裁で3件合わせて第1回口頭弁論が開かれました。

ストップ・リニア！訴訟当面の予定

第20回弁論 9月10日 15:00～

第21回弁論 12月2日 15:00～

場所はいずれも東京地裁 103号法廷
控訴審の期日は未定。

ここが問題！リニア新幹線 NEWS NO.87

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一（中原・高津）090-3910-8173

山本太三雄（宮前） 090-8775-1879

矢沢美也（麻生・多摩） 090-6108-6568